

「笹川杯日本知識クイズ大会」感想文

（平成 19 年度）



財団法人日本科学協会



この「笹川杯日本知識クイズ大会」は、競艇の交付金による日本財団の助成金を受けて実施します。

目次

概要紹介	1
感想文	2
長春師範学院 日本語学部 4年1組 呂鑫	2
長春師範学院 日本語学部 4年1組 金梅花	2
長春師範学院 日本語学部 4年3組 王芳	3
安徽中澳科技職業学院ビジネス日本語 3年 孫文博	3
安徽中澳科技職業学院 ビジネス日本語 3年 戴麗麗	5
安徽中澳科技職業学院 ビジネス日本語 2年 左鄰	5
東華大学 日本語研究科 2年 黃霞	6
福建師範大学 馮明岩、陳燕青、黃晨曦	6
貴州大学日本語科 4年 周進軍	7
山東大学 卜祥紅、呂天雯	8
上海杉達学院 董逸斐	9
中国海洋大学 日本語研究科 2年 張潔	9
浙江工商大学 日本語学部 4年 孫燕	10
浙江工商大学 日本語学部 4年 張叔傑	11
浙江財経学院 陸嬋、周愛飛、王蓉	11
浙江工業大学 林麗君	12
佳木斯大学日本語学部 4年 金曉環	12
佳木斯大学日本語学部 4年 林文来	13
佳木斯大学日本語学部 4年 孫妍	13
佳木斯大学日本語学部 4年 朴美玲（司会者）	14
佳木斯大学日本語学部 4年 李楊（司会者）	14
南京大学外国語学院 日本語学部 4年 張穎	15
南京大学外国語学院 日本語学部 4年 初延安	15
南京大学大学院 日本語学科 2年 王重斌	16
湖州師範学院 日本語学科 4年 顧雅芳	16

<概要紹介>

2007年9月6日に浙江工商大学で「第3回華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」、9月10日に長春師範学院で「第1回吉林省笹川杯日本知識クイズ大会」、9月12日には佳木斯（ジャムス）大学で「第4回黒龍江省笹川杯日本知識クイズ大会」を開催しました。

「華東地域大会」では約500名、「吉林省大会」では約350名、「黒龍江省大会」では約500名の日中関係者、各大学の応援団が見まもるなか、中国の大学生たちが日本語（黒龍江省、吉林省）で或いは中国語（華東地域）で日本知識を競い合いました。参加選手、応援団、接戦を見守る観客…、それぞれの熱気がひとつになり、会場は興奮のつぼと化しましたが、それぞれ、南京大学、長春師範学院、佳木斯大学が白熱戦を制し、大盛況のうちに対戦は終了しました。

さらに、「華東地域大会」では、新たな試みとして、現地の日系企業による企業説明会や在上海日本国総領事館による日本留学説明会などが同時開催され、日系企業への就職や日本への留学に関心の高い学生達が多数参加し、好評を博しました。

2004年、ハルビン市で立ち上げた「大会」は、4年目を迎え、開催地域も3地域に拡大しました。地域ごとに工夫が凝らされた「大会」はそれぞれ特徴的であり、年々、ローカルカラー豊かなものになってきています。各地域とも共通目標を掲げ、“知識から理解へ、理解から信頼へ”を合言葉に、それぞれの方法により目的への接近を図っています。

「大会」参加者した学生たちは、「大会」参加までの道のり、感動、今後の抱負など感想文にまとめてくれました。原文が中国語のものは、原文に忠実に翻訳して、原文が日本語のものは、原文を生かして手を加えず掲載しました。



財団法人日本科学協会

教育・研究図書有効活用プロジェクト室

★中国語原文

※原文に忠実に翻訳して掲載しました。

長春師範学院 日本語学部 4年1組 呂 鑫



補欠から選手へ、そして、優勝の栄冠を・・・

9月10日、我が校主催の「第1回吉林省笹川杯日本知識クイズ大会」が長春市前進大厦で行われ、成功のうち終了しました。激しい力くらべの末、我が校代表チームが桂冠に輝きました。我が校代表チームの選手になったことを大変誇らしく光栄に思っています。

最初の準備から9月10日のファイナルまでを振り返ってみると、多くの所感がありました。

4月には選手の選抜と養成プログラムが始まりました。選抜は原則として自薦でした。これは得がたい鍛錬と学習の機会だと思った私は積極的に参加申し込みをしました。5月末、何段階もの選抜を経て、私は幸運にも補欠選手に選ばれました。先生は学生の積極性をより引き出し、日本語知識レベルを高めるために、毎週ミニテスト、毎月テストという方法を取り、毎回のテスト成績を記録して、選手の選抜用データとしてつけていきました。先生は日本知識クイズ大会の過去問や日本知識に関するテーマを整理してくれて、日本の地理、歴史、文学、民族、中日交流といった分野に分類してからそれぞれ私たちに渡してくれました。つまり、テストの度、前回の内容と共に新しい内容を提供してくれたのです。こうしたカリキュラムで、私たちの日本知識に対する把握度は明らかに向上しました。9月のはじめ、平時の各テスト記録に基づいて、私と2人の学生が参加選手に選ばれました。今こうして当時の様子を思い出すと、みんなと一緒にしてきた努力の一つ一つが懐かしく、得がたい機会だったのだとより深く感じます。

こんな貴重な機会と成績を得ることができ、関心を注いでくれた学校の指導者各位にあらためて感謝したいと思います。我が校の上層部が日本を訪問したのは、吉林省の大学生に日本をより理解させる機会のため、日本語学習への興味を高められるため、「笹川杯日本知識クイズ大会」主催者の座を取りに行くためでした。劉艶院長は何度か選手に補講をしてくれて、忍耐強く学習中の困ったことを解決し、私たちを励まし続けてくれました。他にも多くの先生が選手に無私の援助をさしのべてくれました。馬院長、周書記、孫書記は常に大会準備を把握していてくれて、本当に困った側面で何度も助けてくれました。問題が起きると、事務局の誰もが心を合わせて協力し、部門を問わず、復命も省みず、積極的に任務を完遂してくれました。

この大会は皆さんの関心があってこそ初期の目的を達成できたのです。私自身は鍛錬でき、特に広く学生の日本語学習に対する積極性が今までになく盛り上がったと思います。この得がたい経験は私にとって一生の宝物です。

長春師範学院 日本語学部 4年1組 金梅花



学生生活に彩りを添えた「クイズ大会」

色とりどりの学生生活がまさに終わるといえるとき、私は幸運にも「第1回吉林省笹川杯日本知識クイズ大会」に参加し、優れた成績を得ることができました。学校のための参加でしたが、私の大学生活を多彩にしてくれるものでした。この大会は私の大学生活で最も忘れられないことの一つです。

この大会を通じ、少なからぬ日本に関する知識や教訓を得ることができました。大会の準備中に深く感じたことは、日

本は単なる経済大国というわけではなく、悠久の歴史を持つ文化大国でもあるということです。また、改めて自分の知識がいかに少なく浅いものであったか実感できました。人間は一分野に秀でていけばよいというのではなく多方面に優れていなければ、全面的に進んだ人とは言えないのだと分かりました。

大会中、私は喜びと緊張でとても複雑な心境でした。うれしかったのは、こうした貴重な機会により自分の実力を証明でき、学校と自分のために荣誉をえられたこと。緊張したのは、自身こうした大会に参加するのは初めてで、準備が足りず失敗してしまうのではと恐れがあったことです。しかし、大会の熱い雰囲気ですぐに緊張を忘れることができ、全ての力で問題に当たることができました。頭には回答、回答！最終的に、私たちは、はらはらしながらも逆転して最高得点を獲得できたのです。大会終了が宣言されるとき、私は興奮のあまり我を忘れてしまいました。私が入賞することは、学校にも自分自身にとっても名誉なのです。表彰式の間じゅう、どんなにドキドキしていたことか。優秀賞から第二位まで、その時間がどれほど長かったことか... ついに、「第1回吉林省笹川杯日本知識クイズ大会」の優勝者は…長春師範学院です！という司会者の声がありました。スクラムを組んで戦った私たち3人の選手は満面の笑みで、ドキドキしながら表彰を受けました。巨大なトロフィーが私たちに渡される瞬間、私の心臓は飛び出しそうでした。内心の喜びを表に出したくて、大声で叫びたくてたまらなくなりました。私の心も頭も「私たちはナンバーワンだ！」の一言でいっぱいになりました。

この大会では教訓や知識が得られただけでなく、とても自信をつけることができました。私はこれから歩む道で、絶えず自分を確かめ続け、より良い成績を得るため必死で努力していけると思います。

長春師範学院 日本語学部 4年3組 王芳



「大会」参加は日本語学習の大きな励み

まさに「教師の日」である9月10日、私たちは日本科学協会と本学が主催する「第1回吉林省笹川杯日本知識クイズ大会」に参加し、第一位という好成績を獲得しました。

まずは学校が私たちにこのような得がたい機会を与えてくれたこと、日本語学習に強い興味を抱かせてくれたことに心から感謝したいと思います。この大会を通じて、知識が浅かったりそもそも知らなかったりした日本についての知識をたくさん学び、日本の政治、経済、文化、歴史、現状といった各分野への理解を深めました。日本語学習にとって優れた促進効果があったと思います。

今大会では多くの日本語専攻学生を起用しました。今回のイベント成功は、彼らの日本語学習にとっても大きな励みになることでしょう。

つまり、私たち参加選手にとってもその他の日本語専攻学生にとっても、この大会が私たちの学習に与えた促進効果は他の方法と比べられないほどのものでした。卒業に際してこのような機会をえられたことに對し、改めて大会を指導してくださった各位に感謝申し上げます。ありがとうございました。

安徽中澳科技職業学院ビジネス日本語 3年 孫文博



鍛錬の日々、そして、杭州での忘れ得ぬ3日間

「笹川杯日本知識クイズ大会」の実行委員会から心のこもった招待をいただき、私たちの学院が、幸いにも安徽省で唯一の参加チームとなりました。私も運よく3人チームのリーダーになりました。私たちは「第3回華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」に無限の憧れを抱きながら杭州行きのバスに乗りました。

杭州滞在は9月5日～9月7日の3日間でした。時間は瞬く間に過ぎてしまいましたが、見聞きしたもの、感じたものは美酒のように深くずっと心を離れないことでしょう。

*** しっかりと準備、宝剣の刃も磨いてこそ鋭く**

私たちの学院が参加者となり、学院の上層部と指導教官の劉先生が参加選手の選定から事前知識の準備まで、とても気を遣って具体的な指導をしてくださいました。まず、校内の日本語を専攻する学生に学年を問わず自薦させ、日本の知識テストに合格した学生から人選を行って、私たち3人の選手を選びました。それから先生が資料の選定を手伝ってくれて、関連知識の学習を系統立てて指導してくださいました。また、私は、学院の上層部と劉先生の信任を受けてリーダーとなりました。肩の荷は重過ぎるほどでしたが、学院や劉先生が私たちのため色々な準備に奔走してくれたことは、とても大きな励みになりました。

私たちは、ずっとそういう気持ちで学習に没頭し、夏休みの帰省をしているときでさえ、日本に関する知識を広げるのに気を抜きませんでした。夏休み中、劉先生はときどき電話で状況を尋ねたり、学習の方向を指導してくれたりしました。

間もなく夏休みが終わるといころ、準備が整った私たちは劉先生の引率で杭州に行ったのです。

*** 距離を探り、他人の長所で自分を補う**

私たちのチームは団体戦の表彰に漏れましたが、私は個人戦で勝ち進み、優秀賞に入賞することができました。これも、勿論、今回の杭州滞在での大きな収穫だと言えます。杭州へ行く前に私たちはしっかりと準備したので、団体戦で入賞する夢を描きながらの移動でした。浙江工商大学に着いてから、他の参加チームがいずれも有名校のエリート学生ばかりであることに気づき、たちまち自分たちと他チームとの実力差と肩の荷の本当の重さを感じました。ホテルでは、私たち選手3名と先生で、旅の疲れも省みず、ちょっと休憩しただけで最終準備にかかりました。

9月6日、浙江工商大学学生活動センター2階の劇場で他校との対戦に参加しました。午前の団体戦では最終結果が思うようになりませんでした。自分の能力を超えるパフォーマンスはできたと思っています。先生は思い悩まず積極的に個人戦の準備をするよう励ましてくださいました。午後の個人戦では、先生とチームメイトの応援を受けて心を落ち着かせ、ついに勝ち進むことができました。学院と本人にとっての栄誉を勝ち取れたのです。

杭州にいた3日間で、私たちは他大学から来た多くの仲間と知り合うことができました。皆と一緒に討論し、自分の持っている知識を磨きました。こうした相互交流をするうち、一面では自分と南京大学、浙江大学など他校の学生との間に大きな差があることを十分認識しましたが、他方では視野がかなり広がり、知識レベルがとても早く向上しました。

*** 温かくもてなしてくれた浙江工商大学織**

浙江工商大学に着くと、校門で早くから待っていた担当者の方が温かく迎えてくださいました。それからの3日間、食事や宿泊から大会関係まで、浙江工商大学の先生や学生の皆さんが細かくきちんと手配してくださいました。親切な学生ボランティアの皆さんがいやな顔一つせず身の回りの疑問に答えてくれ、苦勞をいとわず私たちのお願いを聞いてくれたので、家にいるような感覚で過ごすことができました。

*** 皆さんに感謝、そして、また、「大会」で会いましょう**

杭州の旅の3日間は円満に終了しました。この3日間、一分一秒が私の脳裏に深く焼きついています。この大会を準備された皆さん、このような機会を与えてくださって、舞台を作り上げてくださって、ありがとうございました。参加された他校の皆さん、交流を通して得られた経験と知識の向上に感謝します。学院上層部と指導してくださいました劉先生、私たちのために多くの汗をかいていただき、ご苦勞をおかけしました。

最後に、心から「笹川杯」日本知識クイズ大会のますますの発展を祈り、次回の「笹川杯」日本知識クイズ大会でお会

いできることを期待しております。

安徽中澳科技職業学院 ビジネス日本語 3年 戴麗麗



1日で得た一生ものの知識と経験

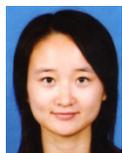
今回、杭州での大会に参加していろいろ感慨を覚えました。大会はたった一日だったのですが、一生ものの知識と経験を得ることができたと思っています。

まず、各校から来た学生たちの姿を目にすることができたこと。彼らと交流するうち、自分の優れている点や劣っている点に気づくことができ、日本語学習への興味と自信が増してきました。また、感じたことは、日本語を学ぶ学生として、語学だけを勉強しては全く足りないということです。国の文化、歴史、そして、より深く広い事柄についても学んでこそ、この言語を学んだ価値を表すことができ、日本語学習の道をより順調に遠くまで歩むことができるのだと思いました。

そして、企業説明会で教えられたこと。現実に日本語を話せる人材を必要とする企業は多く、能力さえあれば、出身校が有名でなくてもどこでも大丈夫だということが分かりました。希望を見出すことができ、もっと努力して学ぶ励みにもなりました。

最後になりますが、この活動を主催してくださった団体、学校そして先生に感謝したいと思います。皆さんのおかげで人とは違う特別な経験ができました。心からありがとうございます。

安徽中澳科技職業学院 ビジネス日本語 2年 左鄰



「大会」の経験と鍛錬は、欠くことのできない宝物

「第3回華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」の選手の一人になれたことは、とても光栄です。

一人の大学2年生として、こんな大規模な大会に参加するのが初めてだった私はとても不安で落ち着けませんでした。先輩や学長と劉先生が気にして励ましてくれたおかげで、少しずつ緊張がほぐれ正常に戻ることができました。

日本語専攻の学生にとって、日本の状況を理解することは必須科目です。そして「笹川杯日本知識クイズ大会」は、そうした知識が把握できているかを試すこの上ない機会でした。この大会に参加した他校の学生たちと交流したことを通じて得たものは多く、足りない点が多かったことにも深く気づかされました。努力を続けたいといけません。

今回の「笹川杯日本知識クイズ大会」では、我が校チームが理想としていた成績には及ばなかったものの、私たち3人が力を合わせて助け合い、支えあったという結果はまたとない収穫だったと思います。こうした経験と思い出は私の人生を豊かにし、とても大切に欠くことのできない一部分になることでしょう。

出題内容はとても幅広く、歴史、文学、社会、文化といった多くの分野に亘るものでした。論議の起きたテーマでは、大会の事務局が日本語の専門家を招聘して評価を仰ぎ、正確な解釈を出してくれました。おかげで大会が公平に行われ、知識を学びえたと同時に、謙虚でまじめな態度の必要性を理解することができました。

この大会に参加して、日本語学習に対する興味がとても強まりました。また、全力を尽くして学ぼうという決意もできました。自分の知識水準を高めて次回の「笹川杯日本知識クイズ大会」に臨み、きっと目指すだけの好成績を収めようと思います。

最後に、今回の「笹川杯日本知識クイズ大会」を主催された皆様へ。このような自己表現の機会を与えてくださって、

ありがとうございました。学院と劉先生がしてくださった全てのことに感謝いたします。

「笹川杯日本知識クイズ大会」のますますの発展をお祈りします。

東華大学 日本語研究科 2年 黄霞



自己表現と自分への挑戦の舞台

天高く、秋風もすがすがしい9月。私たち東華大学代表チーム一行の四人は銭曉波先生の引率で、うらかな西湖のほとりを訪れた。日本科学協会、南京大学、浙江工商大学、浙江省対外友好協会といった機関の主催で、浙江工商大学日本文化研究所が実施した「第3回華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」に参加するためだ。

9月6日、浙江工商大学の美しい下沙校区で大会が開催された。その場で、私たちは華東地区の他大学から参加した11チームと出会った。一日の激しい力比べとすばらしい競い合いの果て、団体戦と個人戦の優勝者が決定。我がチームは団体戦で三位までに入賞することができなかったものの、三人のチームメイトは特徴を発揮できたので、堂々と競えるレベルだったと思う。しかも、個人戦ではリーダーが周囲の期待に応えて才能を発揮し、最優秀個人賞と8日間の日本留学権を獲得しました。

今回の「笹川杯日本知識クイズ大会」は今までにない規模で、意義も深いものでした。華東地区の大学、それも、日本語専攻の学生同士で交流し、学びあう貴重な機会であり、同時に私たち日本語専攻の学生にとって、自分の表現と自分への挑戦ができる舞台でもあり、皆が得たものは大きいと思います。選手たちはこの大会を通して、教科書以外の専門知識を多く得られて日本への理解を深められただけでなく、他チームの学生と交流する経験によって厚い友情を築くこともできました。

私は、特に、今回の「笹川杯日本知識クイズ大会」の主催者各位に、この大会の成功のため払われた多大なる努力に感謝したいと思います。中でも浙江工商大学の先生方は大変ご尽力され、おかげで大会運営は一糸も乱れず、受け入れは行き届いており、参加した各チームに快適な環境が与えられたのだと思います。東華大学代表チームは時間的問題で早めに上海へ戻らなければならなかったのですが、浙江工商大学の方々はそれを知るや進んで車を手配してくださって、お陰で私たちは予定していた汽車に間に合いました。この場をお借りして、浙江工商大学の皆様に改めて私たちからの感謝を申し上げます。

最後に、「笹川杯」日本知識クイズ大会がますます発展し、全国の日本語関係催事のトップとなりますよう心からお祈りします。またいつか「笹川杯」で皆さんとお会いできること、そしてより多くの大学の選手に参加してもらえることを希望しています。一緒に盛り上げていきましょう。

福建師範大学 馮明岩、陳燕青、黃晨曦



「日本知識クイズ大会」から学んだこと

始めに、日本科学協会、南京大学、浙江省対外友好協会、浙江工商大学および協賛の方々へ、今回の日本知識クイズ大会によって学習と交流の機会を与えてくださったことにとても感謝しています。「笹川杯日本知識クイズ大会」は終了しましたが、多くのものを心に残してくれました。

団体戦では、気後れすることこそなかったものの、いまいち積極的に動くことができず、他大学の皆さんに対して私たち師範大のいきいきした姿をお見せ出来ませんでした。早押しコーナーでは、事前に対応を話し合っていなかったせいか、始まったときにはばたばたしてしまいました。問題に答えるときも正確性に欠けていたため、ベスト4までは進めたもの

の入賞はできませんでした。

また、リーダーをしていた私は、個人戦でのパフォーマンスも満足できるものではありませんでした。今にして思えば、この結果も予想の範囲内でした。通知を受け取ってから大会までに二ヶ月強の準備期間があったのに、積極的に準備をしていなかったのです。当時は大会の盛り上がる場面さえ見られれば、大会の緊張した雰囲気が味わえればいいとしか思っていませんでした。成績にあまり期待しなかったのも、心理的にたるんできたのだと思います。引率の先生が、大会で不利になるのは個人的性格ぐら이다（早押しコーナーでは即断が求められる）と励まし、そして、これから改善しようといった話をしてくれたのですが、自分の勉強と努力の不足が招いた結果だと私は分かっていました。細かく思い返すと、今回の経験は大きな気付きを与えてくれたと思います。私はいつも、トライやチャレンジ、何かしてみようといったことを考えているのですが、いつもそう思い、願うばかりでした。試みることはあっても、十分に心血を注ぐということをしてきませんでした。ろくに準備もしないで、どうして理想的な結果が得られるというのでしょうか？

それ以外にも、大会中、観客席の学生の姿も深く印象に残っています。司会者の出した問題には難易度の高いものも多かったのですが、舞台の外の学生たちは回答できていました。参加選手が回答できるのは不思議でもないのですが、舞台の外にいて何ら準備もしていない学生が口をついて答えられるということは、そうした知識が平時の学習で得られているか、聞きなれていて詳しい話題であるということです。しかし、私たちの日本語学習では、ほとんど文法しか注目しておらず、日本の文化知識を蓄えるといった方面は不足しています。

要するに、団体戦であれ個人戦であれ、我がチームは思うように行かなかったということです。結果は少し残念でしたが、この大会で学べたものは多く、成長もかなりできたと思います。今回の最大の収穫は、それまでの自分の小さな枠を出て、私たちと同じように日本語を学ぶ多くの学生に触れ、彼らの姿に自分たちに足りないものを見出したことです。私たちは今後の学習でこうした不足している点を補っていかなければなりません。

貴州大学日本語科 4年 周進軍



「日本知識クイズ大会」の大きな収穫

今回、私たち貴州大学は招待チームとして、「第3回華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」に参加することができました。この大会を通じて得たものは多く、深いものでした。まとめると、主に以下の数点になります。

まず、こうした大会を通じて、多くの学生の学習意欲が養われます。活動そのものは恐らく各チームがいかにランクを上げるかではなく、学生が積極的に日本の政治、経済、歴史、文学、文化といった各方面を理解することであり、そうすることによって目的が達せられる類の大会だということです。思うに、今回の各参加チームは大会前に相当な準備をしてきて、多くの日本関係資料を読んできたのではないのでしょうか。特に組織委員会が推薦する日本知識シリーズ叢書については、私たち全員がまじめに準備してきました。同時に、準備する中で日本の各分野への理解がより深まりました。加えて思うのは、文化交流は双方向的なものであり、こういう方法で中国青年の日本に対する理解を深められるように、私たち中国も日本の大学で似たような大会を開けば、広く日本の学生に中国への理解を深めてもらえるのではないのでしょうか。それでこそ両国間の真の理解が深まり、友好関係が促進できるのだと思うのです。

次に、このような大きな大会では、これだけ多くの大学代表チームが参加するので、各大学相互間の交流も大いに促され、相互理解が深まります。他大学の学生との交流を通じて、私たちは各大学の教育の特色やカリキュラムを理解でき、皆が他者の長所に気づいて自分の短所を補うことで共に成長することができます。これもこの大会の大きな収穫ではないのでしょうか。

また、私たちはこの大会を通じて自分たちに足りないものを感じることができました。この刺激は最高の鞭と言えます。比較をしてみて始めて自分の欠けている部分を知ることができ、この分野に秀でた学生たちに進んで学ぶことによって、

各方面で自分を高められたのです。この大会で私たち貴州大学はある程度の成績がとれたものの、他大学との差は私たちにも感じられました。もっと努力して、今後こうした活動にたくさん参加して皆さんと交流しあい学びあうことでこそ、共に進んでいけるのだと思います。

最後に、ホストを務められた浙江工商大学の皆さんがこの大会のためになされた貢献に深く感謝を申し上げます。

山東大学 ト祥紅、呂天雯



「日本知識クイズ大会」を振り返って思うこと

2007年9月6日、「第3回華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」が、美しき杭州市の浙江工商大学で幕を開けました。まさに司会者の話のとおり、この大会は日本語学習者にとっての自己表現の舞台でした。また、この大会が提唱する「交流により理解を促す」スローガンも印象に残っています。参加した12チームは舞台ではライバルでも舞台の外では友人であり、大会は堂々としたレベルの高いものでした。

今回の大会に参加することができたことは、まず、感謝すべきだと思っています。日本財団や日本科学協会などの諸団体がこの大会を支えてくださったことに感謝します。国と国の交流は多面的なもので、クイズ大会は日本語学習者に新しい学習法をくれました。大会前の準備を通して私たちは授業では学べない日本語などの知識を学習でき、日本の常識についてもより進んだ理解を得ることができました。また、大会中にあったエピソードも著名な日本文化学者である王勇教授の姿を目の当たりにでき、知っていた日本語知識を強固にしてくれるものでした。たとえば、テーマの中に日本の伝統である紅白歌合戦についての考察というものがありませんでしたが、日本人の説明を聞くことで、私たちは赤と白の違いが女性陣と男性陣の違いだとより明らかに分かりました。会場にいたすべての人が今後はこのテーマで何も迷わなくなるだろうと思います。

そして、ホストである浙江工商大学にも感謝しなければと思います。彼らが参加者のために心のこもった大会準備をしてくれて、良好な滞在環境と大会環境を作ってくれたことで今回大会がより円満に成功したのだと思います。今回大会では華東地区の過去二回の大会と異なり、大会での使用言語が日本語から中国語に変更されました。形の上で中国の学生が表現をしやすくなり、また日本語学習者以外へ与える影響も大きくなったと思います。また、もともとの団体戦を基礎に個人戦も追加され、大会の柔軟性が増しました。しかも個人戦の上位六名が日本留学資格を獲得できるということで、大会の魅力も強くなったと思います。そして、この大会では観客の参加も重視していました。それにこの大会には確かに何人かは実力の秀でた観客がおり、ダークホース登場となるとたちまち周囲の喝采を一身に集めました。

この大会にはもうひとつの見方があり、それは大会後にあった日系企業説明会と留学説明会です。日本語学習者にとって、留学と就業は間違いなく二大関心事です。主催者側のこうした気配りもまた、以降の大会にとってきっと参考になるに違いありません。

私たちのチームはこのような大規模大会に参加するのは初めてで、経験もなく準備も足りませんでした。満足のいく成績はとれませんでした。決して私たちの日本理解が生半可だったり、私たちが日本関連知識の学習を放棄したということではありません。私たちは日本文化をずっと学び、理解して、またこのような機会があれば満足のいく成績をとりたくて願っています。また、私たちは「笹川杯日本知識クイズ大会」が山東大学で開催されることを心より歓迎します。そのときには、「日本知識クイズ大会」の歩む道に齊魯文化の薫りを添えるべく全力を尽くしたいと思います。



準備過程から本番まで、全てが収穫

今年の夏休みは有意義なものでした。忘れられない思い出です。杭州を訪れることができたからです。日本知識クイズ大会、なんという憧れの響きでしょう。幸いにも今回大会に参加することができ、私たちのチームが団体戦で入賞することはできませんでしたが、それでも多くのものを学ぶことができました。

第一には日本に関する知識です。日本語専攻の学生として、通常のカリキュラムや課外活動では基本的に日本語という語学の学習に集中しており、日本の文化に対してはあまり関心を持ってきませんでした。出場に応募するまで、私の日本に対する認識といえばドラマや映画、教科書に取り上げられたものばかりでした。しかし、言語を理解するには国の理解も必要です。学ぼうという気持ちで応募しましたが、とても運のいいことに校内選抜をパスしました。夏休みには大会の指定図書に目を通したほか、インターネットで多くの関連データを探しました。ほんの2ヶ月の間にそれまでとは違う日本の姿を知り、私の中のイメージがより立体的なものとなりました。日本の精神史を理解したことで、語学学習も進めやすくなりました。

次に、新しい学習方法を学べたことです。それまで、私は高校生のような学習方法をとっていました。書籍の知識、参考書、問題集、模擬試験。そうしていたことで私は目線を学校教科書にとどめてしまい、授業以外での読み物やインターネット、テレビを無視してしまっていました。しかし、大会の準備にあたって私はより多くのチャンネルから知識を得よう試み、週に一度の『東京印象』、オンラインゲーム、手元の新聞、それまで娯楽でしかなかったもの全てが実は知識の宝庫だったことに気づきました。ある科学者によると、21日間の時間があれば一つの習慣が身につけられるそうです。二ヶ月間がんばって、私は娯楽の中から知識を蓄え、問題を深掘りする視点を学び取りました。大会の準備が私の学習方法を変え、知識を増やしてくれたのです。大会に参加している間はどういうと？

私は杭州を訪れました。杭州には何度か行ったことがありますが、今回は観光地には行きませんでした。浙江工商大学と浙江財経大学を見学し、校風の違いが分かりました。浙江工商大学は学生のメンタルヘルスを重視する大学で、彼らの夢工場はとても深く印象に残っています。そこは学生がストレス発散と本音での話し合いをできる場で、プレッシャーからの避難場所になっていました。とても他の学校の参考になると思います。

また、他大学の学生と交流するうち、異なる地域の文化的な違いを知ることができ、新しい友人もできました。彼らの学識や気迫は頭が下がるもので、やはり学ぶべきものがありました。大会中、何かの理由で問題に間違いが見つかりました。参加者の目はそれを逃さなかったのですが、きちんとした答えではなかったため、テーマに基づいた配点となりました。皆はとても謙虚に理解を示し、細かい欠点をいちいち咎める人はいませんでした。上に立つものの風格とは何かを目の当たりにできました。こうした選手には負けても心から納得できます。その上、彼らが勝つのがすうれしくなりました。

大会から得たものはたくさんありました。学術知識から人となり、処世まで。この活動を通して、収穫も進歩もあったと思います。この大会の効果は一朝一夕のものではないと信じています。公平で友好的、探求を求めるこの大会の精神を身につけ、学び続けようと思います。



「大会」参加はまさに驚喜！

今回の大会に参加し杭州に行ったことについて、感情は「驚喜！」としか表しようがありません。大会のお知らせをもらってから結果が出るまでずっと、期待、興奮、完璧、前進の思いの中で過ごしてきましたが、

もちろん知識の海や手ごわい相手に直面して不安を感じたことはありました。

大学では5月に予選が行われ、通過した私たちはこの上なく学習に打ち込みました。そして、私はチームメイト達と充実した夏休みを過ごしました。焼け付く太陽、やまめ蝉の声がより暑さを感じさせましたが、私たちの心には大会があり、知識の海をめぐっていたため、すっきりと落ち着いた気分でした。長いこと落ち着いて学習したので、この大会は私たちにとって、自分に帰り、自分を充実させる機会となりました。

9月4日、私たちは杭州に向けて20時間余りの旅に出ました。幸いなことに私たちは到着するとすぐに現地チームの心がこもった招待を受けることができました。特に、食事で同席した浙江工商大学のメンバーは、親切にも当地の風土を紹介してくれたり、面倒を見てくれたりしました。私たちはとても感動し、大会の結果はさておいて、この友情と真心が一生もののとても大きな財産だと感じました。

大会には団体戦と個人戦がありました。ここまで規模が大きく厳密に組織された大会に参加したのは初めてです。客席の無数の目、各校の闘志あふれる選手と対面して緊張しなかったといえど嘘になります。私には自分の心臓の音さえ聞こえませんでした。何問か終えてやっと落ち着いたのです。出題範囲はとても広く、日本の政治、経済、地理、歴史を含んでいました。それまで努力して学習してこなかったせいで読んだ本も少なかったのか、覚えている事柄が少なく、知識も不十分でした。より強化しなければならないところの多いこと多いこと。学校に戻ったら、きっと真剣に本を読み、見聞を広め、しっかり学習したいと思います。この大会は刺激にもなり、励みにもなりました。私の向学心に火をつけたのは、知識にはいずれ使うときが来るとのことだと確信しています。使えないのではなく、その時がまだ来ていないだけ。いずれ何年何月何日には機会が訪れ、それまで黙っていた知識が華やかに登場するのです。そんな機会はそうそうあるものではありませんが、絶えず知識を学ぶ過程で自分を豊かにできる経験は何物をもっても変えがたいものです。知識に限界はありません。知識を得るには絶えず努力し、積極的に取り入れ、勇敢に進んでいくしかありません。

私たちのチームは優勝できませんでした。残念に思うのと同時に、原因を考える必要があります。ひとつは実力がまだ弱く、早押しボタンを押せるだけの勇気がなかったこと。もう一つは、優柔不断な心理面。極めて短い時間のうちに判断を下すことができなかったことです。ですが私たちは努力し、力を尽くし、チームメイト同士で協力し、助け合い、深い友情を築きました。肝心なときには私たち3人が一緒になって心をつにし、この大会のため共に過ごした時間は3人の生命が一つに交わる、そして、これからの人生を照らすフラッシュの焦点であったと思います。

浙江工商大学 日本語学部 4年 孫燕



「大会」のホストとして、また、選手として

はじめに、このような高レベルの日本知識クイズ大会に参加できたことをとても光栄に感じています。浙江工商大学の代表として、学校の名譽を勝ち取るべく、もちろん賞品の魅力もあり、私たちは力を尽くしました。夏休みの特に学期の始まる頃、私たちは必死で本を読みました。話は戻りますが、ラストスパートは必要なものながら、日本の知識は日ごろの積み重ねによるものです。

ついに9月5日、各代表チームの皆さんと対面しました。彼らは皆、遠方からの客人です。ホストである私たちは、心をこめて皆さんに接しました。しかし、メンバー間の交流が膠着してしまうと打破するのは簡単ではありません。だいたい誰もがライバルとみなされているので、当然こちらに失礼な点がなければ少しずつ打ち解けていくことはできました。それから、より深く知り合い、心のこもった交流ができたのです。

実力の非凡な皆さんが大会でその才能を発揮し、多くの問題も小鉢のようにこなしていました。難問でさえも手馴れたもので、余裕のある様子でした。どれだけの本を読んで積み上げた知識なのだろうと思いました。

残念なことに私たちのチームは決勝戦に進めませんでした。早押し問題についていけず回答できなかったのです。早押

しボタンの感度を疑ってばかりいましたが、最後になって自分の反応が遅かったのだと気づきました。規則違反をしたくないばかりに堅くなりすぎてしまったというもあります。もしかすると私たちは「謙譲」し過ぎたのかもしれませんが。慰めは、個人戦で張叔傑が見事に勝ち進んだことです。しかしながら、工商大学のダークホースである彼も惜しいことをしました。

見事な試合を満喫した後、ついに表彰式の時を迎えました。一組ずつチームが表彰台にあがるのを眺め、心中では悲しく思っていました。余りにも意外だったのは最後の最後に私たち工商大学が最優秀功労賞をいただけたことです。とても貴重な賞品もいただきました。実際、この賞は大会のため大変な努力をされた先生方と事務局の皆さんのためのものです。

この有意義な大会では、感じたものも学んだことも数多くありました。今後はさらに努力して学び、中日友好のために尽力しようと思います。

浙江工商大学 日本語学部 4年 張叔傑



日本理解と同時に中国にも理解を

「第3回華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」に参加することができ、私も2人のチームメイトも光栄です。

各地の大学からやってきた優秀な選手たちと競技に参加できたことは、自分にとってとてもよい鍛錬と能力確認になりました。

もともと参加には言い知れぬ恐怖心があり、できが悪くて皆さんを失望させたらどうしようと心配で、ずっと緊張していました。しかし、会場の皆さんから心のこもった励ましをいただき、とても感動しました。大会を動かす力ともなりました。残念なことに私たちは団体戦に進めず、満足のいく答えが出せませんでした。リーダーだった私は自分を責めました。次の機会にはもっとがんばれるよう、皆さんの励ましや期待にまけないようにと願っています。

この大会を通じて、私たちは色々な面で成長できました。大会前の準備では、ほんの一部分とは言え、形のないところから日本に対する理解を深めることができました。今後も努力を続け、日本を理解するとともに日本に中国を理解してもらおうと思います。

浙江財経学院 陸嬋、周愛飛、王蓉

見て、聞いて、感じて、全てが美しい思い出

瞬間に「第3回華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」の幕は下りました。しかし、大会前に緊張でどきどきしたこと、大会中に全力で取り組んだ目つき、大会後の肩の荷が下りた気分は今でも忘れられません。

今回の浙江工商大学で行われた「笹川杯日本知識クイズ大会」は、従来の日本語による出題と回答という慣例を改め、出題も回答も中国語によるものとなりました。参加選手は浙江省内の4校（浙江工商大学、浙江大学、浙江工業大学、浙江財経学院）だけでなく、遠路はるばるやってきた南京大学、貴州大学、中国海洋大学など省外の8校もいました。この大会は自己表現の舞台を与えてくれただけでなく、六省一市の大学生が持つ日本語レベルをだいたい理解できる機会ともなりました。参加選手たちは大会前後の研究や交流でも深く印象に残っています。私たちのチームは満足の行く成績がとれませんでした。この二日間の大会で得られたものはたくさんありました。ある意味、この大会はここ3年の日本語学習を試すだけのものではなく、今後の日本語学習に参考やガイドラインとなるものでもあり、自分の足りない点や欠点をはっきり理解させてくれました。他の選手の姿から見たもの、聞いたもの、感じたものの全てが美しい思い出になっていくでしょう。

この大会のホストである浙江工商大学日本語文化研究所と日本語専攻の学生の皆さんが大会のためになされた努力には

深く感動しました。大会前のおいしい食事や快適な宿泊先、大会後の周到な送迎。大会だけを見ても一糸乱れぬ秩序や熱く楽しい会場の雰囲気。私たちはこの大会で彼らがどれだけ働き、心血を注いだか深く感じました。この場をお借りして一言。「お疲れ様でした、ありがとう！」

「第3回華東地域笹川杯日本知識クイズ大会」に参加できたことは、とても光栄です。招待して下さった浙江工商大学にとっても感謝しております。惜しむらくは私たちがもう大学を卒業してしまい、選手としてこういうイベントに参加できなくなってしまうことです。ですが、私たちの後輩には学習に努め、こうした大会で観衆に自己表現をしてみせる姿を見せてほしいものです。

浙江工業大学 林麗君



結果はどうあれ、今後の励み

今回の「日本知識クイズ大会」は、総じて素晴らしいものでした。他校の選手が優れたパフォーマンスを見せてくれ、特に貴州大学のメンバーには感心しました。一問一問の回答がすばらしいものでした。浙江工商大学のメンバーも周到な準備をしてくれて、選手のために奔走してくれて、本当に感謝しています。この大会を通じて、自分がこんなに勉強不足だったと知ることができ、失敗ではありましたが、今後の学習の励みになりました。

自分も勉強不足でしたが、出題数が少なすぎたように感じており、始まらないうちに終わってしまったような感覚がありました。問題の難易度も様々で、確かな基礎知識以外にも運が欠かせなかったのではと思います。ですが、出題数が多すぎると一日で大会を終えることができず、本当に優勝しようと思ったら、十分に準備しておかなければならず、運だけで好成績を得ることはできません。ちょうど貴州大学のメンバーのように、優勝こそしなかったものの、割り切りよく的確な回答は最も面白いものでした。これこそ知識クイズ大会選手が持つべき風格でしょう。

この大会では理想的な成績こそ取れませんでした。他地域から来た同じ年代の人と多く知り合えました。皆が友達同然に郷里のこと、将来の就職について話し合い、心を開けたことで、今回の旅行はとても有意義だと思います。

★日本語原文

※原文を生かして手を加えず掲載しました。

佳木斯大学日本語学部 4年 金曉環



全力を尽くして勝ち取った優勝

私はチャムス大学日本語科の四年生です。

チャムス大学チームの三名選手の一人として、今度の「笹川杯日本知識クイズ大会」に参加することができて非常に光栄かつ喜びであります。

もっとも誇りに思うことは最後に優勝をとったことです。私は今度の優勝を取ったのはそれなりの先生方のご指導と私たちの努力による賜物だと思います。

今度のクイズ大会のために、先生と私たちはたくさんの準備と努力をしました。夏休みは外の学生たちは夏休みを楽しんでいましたが、私たちは休まないで、ずっと学校で先生たちのご指導に基づき、いろいろと練習と勉強をしました。それだけでなく、私たち自分もインターネットでいろいろな日本の文化、地理、歴史、政治についての資料を集めました。

新学期が始まってからは「市島先生」のご指導で毎日先生のお部屋で二時間以上練習しました。早押しのボタンを押す練習が必要だと思って、先生の電気スタンドのスイッチで練習もしました。全力を尽くしてからの優勝なので、日本に八日間旅行することができてもっともうれしく思います。

このような大会は中日両国の交流を促し、お互いに友情を深めることに役に立つことだと思います。非常な微力である私は、全力を尽くして、中日両国の交流のため、お力になれば幸いです。

佳木斯大学日本語学部 4年 林文来



大会の全てが貴重な経験

今年9月12日「笹川杯日本知識クイズ大会」は佳木斯大学で成功裏に閉幕しました。佳木斯大学の代表選手の一人として、私は緊張かつ楽しい一日を過ごしました。

今度の大会を契機に、私は勉強の余暇にインターネットなどのメディアを利用して、興味深くたくさんの資料を集めて、日本について文学や地理や歴史などいろいろなことがよく分かってきました。大変勉強になりました。そして、また、この間日本からいらっしゃった先生のご指導のもとで、皆一緒に全力を尽くして、お互いに思いやって、助け合って、チームワークの大切さを甚だしく心に感じると同時に、新しい友達もできました。これらすべては貴重な経験になり、今後の人生にも必ず役に立つと思います。

中日両国は海を一つ隔てて一衣帯水の隣国で、両国人民の友好往来の歴史は非常に長く続いています。中日両国の文化と風俗において似ているところも底抜けに多いです。ですから、大学生として特に日本語専門の学生として日本の文化をただ表面ばかりでなく、一段深く理解する必要があると思います。

今度の大会はすでに閉幕しましたが、私たちの勉強はこれから末永く続けようと思います。これは一つの通過点で、ゴールなどではありません。「笹川杯日本知識クイズ大会」はまたとないよい学習の機会です。また、参加者として大変光栄に堪えません。今後、微力ですが、精一杯努力して、中国と日本の友好のためにできる限りのことをするつもりです。

佳木斯大学日本語学部 4年 孫妍



自ら挑戦し掴み取った貴重な経験

「第四回黒龍江省笹川杯日本知識クイズ大会」が、佳木斯大学で成功裏に開催されたことは、私たちにとって、この上もない喜びであります。

選手の一人として、私は一生懸命頑張りました。黒龍江省八カ所の大学が参加しましたが、名門大学の学生たちに初めて会って、私は少し心細い気持ちでした。佳木斯大学を代表して、こんな盛大な大会に参加したことは、責任を持つことだと思いました。

ステージの上に登場してから、私はずっとときどきしました。観客席にいる黒龍江省、佳木斯市からのお客様、また先生方や友達など全員が、私たちに期待を寄せているに違いありません。

早押し問題はまるで長距離のマラソンを走ったかのように疲れました。その時の気持ちは言葉では言い表せません。私たちのチーム三人はしっかり手を握り合い、観客席からの温かい応援に答えようと、三人それぞれに力を出しました。やっと私たちのチームは優勝することができました。私はほっとして、涙があふれてきました。本当に優勝しました。三月から九月まで、半年ぐらいの苦勞の報いとして、優勝をとりました！本当によかったと思いました。佳木スの皆さんの期待にこたえることができたと感じました。

たぶんこれは私の長い人生の中で、ひとつの出来事にすぎないかもしれませんが、このことを私が忘れることはないでしょう。この経験はお金に換えることができませんでした。

この経験を通して、私はどんなチャンスでも自分から挑戦し、結果はどうであれ、一生懸命取り組み、そこから何か自分なりの経験をつかみとることが大切なのだと思うことができました。この笹川杯日本知識クイズ大会は私にとって本当にいいチャンスだと思いました。ありがとうございました。

このようないいチャンスをくださいました日本財団、日本科学協会の関係者の皆様、私を支えてくださった先生方や多くの仲間たちに深く感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



佳木斯大学日本語学部 4年 朴美玲 (司会者)

専心努力すれば、おのずから収穫あり

私はチャムス大学日本語専門の4年生です。

私は日本語が好きなので、日本語専門を選び、チャムス大学に入りました。「あ、い、う、え、お」から日本語を習い始め、今は日本語が話せるようになりました。これはチャムス大学の日本語科先生の方々の教えによって、自らに頑張っていたおかげであると思います。

今度、またない機会でも、光栄にも「第四回笹川杯日本知識クイズ大会」の司会者を担当させていただきました。まずは、この大会でご努力とご尽力いただきました先生の方々に心からお礼申し上げます。

今度の試合のため、学校は五月ごろから三年生の中で選手と司会者を募集し、何ヶ月の練習のあと、やっと選手3名と司会者2名を決めました。今度の「笹川杯」の司会者は以前と違って、独特的に二人で司会することになりました。私たち司会者を担当する二人は、わざわざ日本からお出でになった種市先生のご指導で夏休み中、毎日三時間ずつ練習しました。種市先生はいつも「はっきり、ゆっくり、大きな声で」と私たちを教えてくださいました。先生のおかげさまで、イントネーションや発音が日に日によくなりました。そのほか、片岡先生もご指導くださいました。

9月12日朝9時ごろ大会が始まり、二時間半くらいを通じて、無事終了いたしました。途中でミスなどもありましたが、皆笑顔で理解してくださって、ここで「まことにありがとうございました」と言いたいです。司会者となったおかげで、日本に八日間旅行するようにもなりました。憧れの日本の本物に触れると思うとわくわくしています。ここで、日本財団、日本科学協会にも「ありがとうございます」とお礼申し上げたいです。

このクイズ大会を通じて、私は自分の能力を高めるのみならず、いろいろな知識も習いました。もっとも大切なのは、「専心努力すれば、おのずから収穫がある」ということを自身でしっかり覚えてきました。

佳木斯大学日本語学部 4年 李杨 (司会者)



日本語能力を高め、視野を広げた「クイズ大会」

私はジャムス大学日本語専攻の4年生です。

2007年9月12日に第四回黒龍江省笹川杯日本知識クイズ大会がジャムス大学で盛大に行われました。ハルビン工業大学や黒龍江省大学やハルビン理工大学など、8つのチームが出席しました。私は司会者を担当させていただきました。大変光栄に存じます。

クイズ大会は2時間ほどかかりました。成功裏に閉幕いたしました。ジャムス大学が優勝チームを獲得いたしました。

今度の日本知識クイズ大会を通して、私は日本語能力が高められました。司会者としての言葉遣いとか、礼儀作法とかいろいろな知識を学んで、目を広げました。日本に関する知識など豊かにされましたし、司会者としての経験も積まれたことを、私にとって終生忘れられないことだと思います。

笹川杯日本知識クイズ大会は日本語を専攻する学生に相互交流の舞台を作ってくださいました。知識クイズ大会を通して、学生たちは日本語に対する熱意をますます燃やさせてくださいました。同時、日中双方の相互理解と友好増進に寄与できたものと確信いたしております。

笹川杯日本知識クイズ大会にまた参加できるよう、心からお祈り申し上げます

南京大学外国語学院 日本語学部 4年 張穎



一生忘れられない思い出

9月6日、先生に案内され、クラスメートとともに「人間界の天国」と呼ばれた杭州にたどり着いた。美しい町で、美しい季節に、美しい人々とめぐり合った。中国語を架け橋に、日本に関する知識をもとに、四方八方からの友達が杭州に集まってくれた。わずかの二日間だけど、ともに笑ったり、励まし合ったりして、私たちは見知らぬ他人から心の知れた友達になれるのはまことにありがたいものだ。それらをしてくださったのは、第三回「笹川杯」華東地区日本知識大会なのだ。「笹川杯」に心から感謝の意を申し上げたいのだ。

「笹川杯」、ありがとう。あなたのおかげで、日本語自身だけに力を注げばいいと思い込んだ甘い私を変えてくれた。どうすればもっと多くの単語を覚えられるのか、どうやって日本人らしい日本語が話せるか、そういうことばかり考えてきた。しかし、日本のこと、文化とか、歴史とか、それも大事なことでよく意識していなかった。今回の大会に準備するために、日本関係の本を何冊か読んだから、何とか日本のことがまえよりよく分かった気がした。その中で、いろいろと勉強になり、面白いことで楽しませてくれ、視野も広げられた。もちろん、足りないところがまだまだたくさん残されている、「笹川杯」をきっかけに、これから本当の日本を知り、本当の日本をもっと多くの中国の人に紹介するために、中日友好にいささかなりとも役に立てるように、頑張る。

今までの「笹川杯」はだいたい地域によって行われてきた。もし全国的な大会があれば、梅に驚ではないかと思っている。もっと広い舞台でもっと多くの友達と経験とか、心得とか、交流し合うと、長を取り、短を補い、皆さんの日本語実力にしる、日本関係の知識の豊かさにしる、両方とも向上するだろう。

今回の「笹川杯」に参加してよかった。一生忘れられない思い出になる。

南京大学外国語学院 日本語学部 4年 初延安



日本クイズ大会から得たもの・・・

2007年9月6日、私は、王さんと張さんと一緒に、南京大学を代表して、杭州で行われた華東地域第三回『笹川杯』日本知識クイズ大会に参加しました。最後に、優勝のカップを捧げたとき、胸がいっぱいになりました。先生たちからの指導と自分の努力がああ時に成功の実を得ました。これだけじゃなくて、今回の知識大会を通して、日本に対する知識がもっと系統的になったと思います。そして、またいろいろの大学の学生と出会って、貴重なフレンドシップも得ました。

この大会の前に、自分がいろいろな本を読んで、また授業から学んできた日本の知識がもう十分だと思いました。でも、先生からもらった本を読んだら、すぐわかりました。今まで学んだものはほんのわずかのものでした。そして、そのもの

がばらばらなので、ただの日本の知識のいくつかのポイントでした。今回の大会を通して、日本についての知識がもっと系統的になりました。本当に先生たちにありがとうと伝えたいんです。休みの時間に指導してくれてありがとうございました。お疲れ様でした。

そして、王さんと張さんと一緒に大会に参加したことは本当によかったと思います。先輩の王さんがすごく落ち着いて、また、日本についての知識が私たちより豊富で、また、いろいろ手伝ってくれ、勇気も与えてくれました。張さんもいつも自信満々で、何も言わないけど、目つきから自信を与えてくれました。王さん、張さん、本当にありがとうございました。一緒に大会に参加したことが本当によかったと思います。お疲れ様でした。

また、この大会で、貴州大学、浙江大学と中国海洋大学などの学校の皆さんと出会って、友達ができ、本当にありがたいです。みんなと一緒に話し合ったり、日本語の学習の経験も交換したりしていました。本当に貴重な経験でした。

最後に、日本科学協会、日本財団、浙江工商大学及び今回の大会を応援しました各方面の方々、ありがとうございました。今回の大会を通して、私は、日本についての知識がもっと多くなりました。もっと系統的になりました。また、日本についてもっと興味を持って、これからもがんばりたいと思います。また、中日の交流をもっと深くするようにがんばりたいと思います。本当にありがとうございました。

南京大学大学院 日本語学科 2年 王重斌



理解は友好の始まり

知識は海のように果てしなく、広いものだと言われている。日本知識はそういうような範囲も広く、内容も豊かなものだと思う。

今回の知識クイズ大会に参加することによって、日本に対して、前よりもっと深く理解できるようになったと感じている。日本人のアニミズムの信仰とか、日本歴史の流れとか、能、歌舞伎など日本伝統的な芸術とか、茶道、華道など日常生活に生まれた芸術とか、確か世界での独特な文化だとわかってきた。表の文化は外から受容したものだが、裏にある精神は大和民族特有なものだ。日本文化の裏にある独自のものこそ他国の人々にとって理解しがたいものではなかろうか。しかし、理解は友好のはじめである。国同士は人間同士のように理解しあってはじめて友達になることができるであろう。理解するためには、まず互いのことをよく知るのが必要だ。

よく口にする「中日友好」というものは、簡単に実現できるものではないが、人々の力をあわせて、共通の願いに向かって努力すれば、きっと達成できると思う。国の将来は青年の肩にかかっているもので、若者たちの考え方、やり方はとても大切だ。

日本知識クイズ大会は「日本を理解する」という橋をかけ、われわれにとって学習のいいチャンスでもあるし、中日友好のためにもっとがんばる必要があると感じることでもある。身につけた日本知識をよく生かして、周りの人々に日本を紹介し、理解させるように努力したい。

最後になって、中日両国がほんとうの友達になるよう、心から願っている。また、日本知識クイズ大会が有意義な活動なので、続けて行っていただきたい。

湖州師範学院 日本語学科 4年 顧雅芳



一生忘れられない宝もの

“笹川杯”クイズ大会は日中双方のご協力で盛大に開催されました。今回、「第3回華東地域笹川杯日本知

識クイズ大会」の司会者を担当することができ、とても光栄と存じます。

さて、私は当時各学校の代表チームの素晴らしさに感心しました。私ども二人の司会者は選手たちとともに、自分と戦いました。周知のように皆さんの注目下で舞台上に立つと緊張するのは当然のことと思いますが、選手たちは、なお、有限な時間で質問に回答しなければなりません。選手たちは問題を聞いてから、反応がすばやく、答えました。80%の問題が正解されました。一時、会場は煙のない戦場になったようでした。選手たちは、誰にも負けたくないという猛烈な闘志を見せて感動させました。それに、観客の皆さんも情熱で参加しました。選手たちを応援したり、台上に上って大会に参加したりしました。全会場も盛り上がりました。また、私は大変いい勉強になりました。たくさんの名大学のトップと出会って、自分の不足にやっと気が付きました。これから、皆さんに追いつこうと精一杯がんばります。

残念ながら、私ども二人の司会者は何度もミスをしました。幸いご臨席の日本人の方々及び先生たちのお陰で、最後まで頑張りぬきました。この度の体験は一生忘れられないと思います。これを宝ものとして保存したいです。卒業も目の前のことですが、この前の選手たち前向きの志に習って、自分と戦いよりよい人生をつくろうと思います。